

2022 年度 NGO 海外援助活動助成 完了報告レポート

A young boy with dark skin and short hair is shown from the side, leaning over a handwashing station. He is wearing a blue t-shirt and green pants. His hands are cupped under a white faucet, and water is flowing into a pink plastic basin. A bottle of pink liquid soap is visible on the station. The background is a blue wall and a white pillar.

一般財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

はじめに

当財団のNGO海外援助活動助成事業につきまして、平素からご理解・ご支援を賜り有難うございます。

2022年度の助成につきましては、2022年2月に助成先10団体を決定し、その後、ウクライナ避難民支援特別枠を設けて10月に助成先3団体を決定しました。新型コロナウイルス感染症流行のために活動期間を最長1年間延長していた2021年度の助成団体3団体を含め、2023年3月までの活動実施を経て、計16団体から完了報告書を受領しました。

これらをもとに各々の活動の実施状況や現地の方々の声等を取りまとめましたので、ご高覧いただけますと幸いに存じます。

各団体の熱心な活動に敬意を表するとともに、今後のますますの事業発展をお祈りいたします。

2022年度の活動は、本助成制度を開始して10年目という節目にあたります。これまでの活動の状況をまとめたものを巻末に付してございます。

今後とも、皆様の深いご理解と、温かいご支援をお願いいたします。

2023年10月

一般財団法人ゆうちょ財団

理事長 小笠原 倫明

目 次

■ Report及び現地の方々の声

1 2021年度助成活動

カディプロジェクト	4
シャンティ国際ボランティア会	6
地球市民の会	8

2 2022年度助成活動

礎の石孤児院	10
幼い難民を考える会	12
YOU&ME ファミリー	14
Little Bees International	16
LOOB JAPAN	18
国境なき子どもたち	20
シェア＝国際保健協力市民の会	22
シャプラニール＝市民による海外協力の会	24
テラ・ルネッサンス	26
パレスチナ子どものキャンペーン	28
《ウクライナ避難民支援特別枠》	
地球市民の会	30
テラ・ルネッサンス	32
LIFT LIFE STANDARDS	34

■ 2022年度講演会等助成レポート

アジアの子どもたちの就学を支援する会	38
パルシック	40
LOOB JAPAN	42

■ NGO海外援助活動助成のこれまでの実施状況等

1 NGO海外援助活動助成制度の変遷	46
2 2024年度「NGO海外援助活動助成」募集要項(抜粋)	48
3 活動地域(2013年度～2023年度)	51
4 NGO海外援助活動助成団体一覧(2013年度～2023年度)	53

Report及び現地の方々の声

2022年度の助成団体13団体（うち3団体はウクライナ避難民特別枠）及び新型コロナウイルス感染症流行のために活動期間を最長1年間延長していた2021年度の助成団体3団体について、活動概要、助成期間中の活動に関するReport及び現地（活動地）の方々の声をまとめました。

カディプロジェクト

農村地域における、 自然素材を用いた就労場所づくり

インド ビハール市ガヤ県ブッダガヤハティヤール村（2021年4月～2023年3月）

助成額：999,660円

活動の概要

インドでは、伝統的な手紡ぎ・手織りによって作られた生地を総称してカディと呼びます。

団体は、カーストの中でも最も順位の低い指定外カーストの人々が暮らす村で、女性のサステナブルな自立支援を目指した職業訓練として、カディの糸紡ぎの技術指導を行っています。また、カディの糸紡ぎの就労場所の建設において、安易に近代的な構法を持ち込むのではなく、現地で調達可能な自然素材（藁、竹、土等）を材料に用いることにより、強い日差しや高温な環境条件の下、自然素材の屋根や壁によって外気を遮断し、ひんやりとした屋内環境を実現する取組みを行っています。



（写真1）仮の作業場で糸紡ぎの訓練をする女性たち

Report

今回の活動では、就労場所の建設完了までの間の仮の作業場で18台の糸車を用いて女性たちに糸紡ぎの訓練（写真1）を1日4時間指導した結果、2023年1月までに15名の女性が技術を習得できました。

また、就労場所の建築については、屋根材に用いる竹を入手するため、良質の竹（写真3）を伐採し、乾燥させ防虫処理を行いました。建設にあたって必要な建材調査および制作を通じて、自然素材の調達方法から制作方法、それに基づいた建材のコストを明らかにすることができました。新型コロナウイルス感染症の影響や竹の運搬・防虫処理・竹の乾燥に要する期間により就労場所の建設スケジュールが延長されましたが、就労場所は2023年10月に完成する予定です。



(写真2) 活動地において就労場所の屋根の実寸大模型を構築する様子



(写真3) 活動地から300km離れた場所に自生する良質の竹を調査している様子



(写真4) 建設地で竹の調査結果を関係者に報告する団体スタッフ（右端）

現地の方々の声

- ・この施設で産業が生まれることで、将来的に村の発展に寄与できることを期待しています。
（就労場所の土地を提供してくれた活動地の村長）
- ・自宅から歩いて通える場所で収入が得られる機会ができ、少しでも生活が改善していくことを期待しています。（職業訓練に参加した女性）
- ・カディの需要は年々高まっている。就業意思のある女性たちの雇用の機会が今後この場所でさらに広がっていくことを期待します。（インド中小企業省ガヤ地区責任者）

カディプロジェクト

住所：〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町59

URL：<https://khadi-pj.nimai-nitai.jp/>

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

少数民族の児童のラオス語能力向上支援のための絵本を通じた読書推進活動

ラオス ルアンパバーン県パクセン郡（2021年4月～2022年8月）

助成額：820,188円

活動の概要

活動地のパクセン郡は、人口の88%以上がラオス語を母語としない少数民族です。子どもたちは家庭では少数民族言語を話しているため、ラオス語を話す教員とのコミュニケーションに支障をきたし、留年や退学の要因となっています。このことは、従来からラオスの初等教育の課題であり、児童のラオス語学習の支援ニーズは今なお高い状況ですが、活動地では子どもたちの読書教材となる本が不足しています。

団体は、読書教材の出版と移動図書館活動を通じた読書促進活動を実施し、対象小学校の少数民族児童のラオス語能力の向上を図っています。



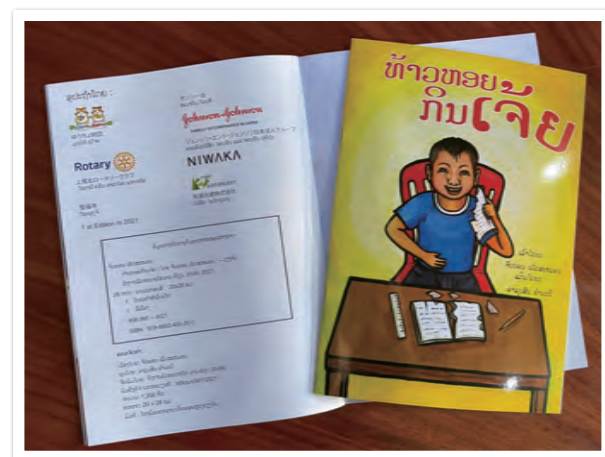
（写真1）移動図書館活動の様子

Report

今回の活動では、少数民族の子どもたちのラオス語の読解力向上のために、絵本と紙芝居を作成し（写真2、3）、図書館や学校等に配布しました。また、少数民族の子どもが多い学校10校を対象に、移動図書館活動（写真1）として、子どもたちに絵本や紙芝居の読み聞かせを実施しました。さらに、10校の教員を対象とした本の貸出しや管理、読み聞かせ方法についての研修会（写真4）も実施しました。これにより子どもたちの読書機会が広がり、フォローアップ時の調査では、対象校の子どもたちのラオス語の読み書き能力が向上したことが確認できました。



(写真2) 作成した紙芝居



(写真3) 作成した絵本



(写真4) 教員を対象とした読書推進活動研修会の様子

現地の方々の声

- ・ 普段は朝の5時に起きて、朝ごはんの支度を手伝います。学校には7時頃に到着し、授業に参加します。私の好きな教科は算数とラオス語で、将来は先生になりたいと思っているので、これらの勉強を頑張っています。休み時間に面白いお話を探しに、図書コーナーに行くこともあります。支援して下さる日本のみなさんのおかげで、本を手取る機会を得ることができています。（対象小学校に通学する児童）
- ・ 学校ではラオス語を一生懸命勉強していて、昼休みに図書コーナーに行き友達と絵本を読んで楽しんでいます。私の学校には図書コーナーがあり、面白い本がたくさんあります。本を読んでいると、知識も増えますし、何より楽しい時間を過ごすことができるので、学校にも休まず通っています。私たちに図書のご支援をいただいた皆様に、感謝の気持ちを伝えたいです。（対象小学校に通学する児童）

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

住所：〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階

URL：<https://sva.or.jp/>

特定非営利活動法人 地球市民の会

生活用水配水による衛生環境改善事業

ミャンマー チン州ミンダ県マトゥピー郡ピンティア村（2021年4月～2022年9月）

助成額：896,625円

活動の概要

ミャンマーにあるピンティア村は急峻な山々が連なる山岳地域であり、かつ町からも非常に遠い地域で基礎インフラ整備が行われていません。雨季になると通行が困難になる道路、電気が引けていない、水が容易に手に入らないなどたくさん抱えています。その中でも水の入手が一番大きな問題です。水源までは約4 km離れており、バイクのある家庭はバイクで、ない家庭は徒歩で毎日水汲みに行かなければなりません。

団体は、このような地域で給水施設の整備を行うとともに、住民による維持管理委員会を組織し、管理規則の設定、維持管理基金の創出を行いました。また、住民に対して衛生研修も実施しました。



（写真1）地域住民が参加して塩化ビニルパイプを配管している様子

Report

今回の活動では、約4km離れた水源から集落まで塩化ビニルパイプを配管し（写真1）、さらに、集落の中に貯水タンクを建設しました（写真2、3）。新型コロナウイルス感染症及び2021年2月1日に起こったクーデターの影響で資材パイプの運搬に時間がかかりましたが、地域住民の積極的な参加と協力によって配管はきわめて短時間で終わることができました。今後もこの設備を地域住民によって維持管理できるよう給水施設維持管理委員会を立ち上げました。また、主に子どもを対象とした衛生研修を実施（写真4）し、手洗い、うがい、歯磨きの仕方を指導しました。



(写真2) 貯水タンクを建設している様子



(写真3) 完成した貯水タンク



(写真4) 衛生研修の様子

現地の方々の声

今までは遠くまで水汲みに行かなければならなかったので、必要最低限のことだけに水を使っていましたが、きちんと手洗いやトイレの水のために使用できるようになりました。（村人）

特定非営利活動法人 地球市民の会

住所：〒840-0822 佐賀市高木町3-10

URL：<https://terrapeople.or.jp/main/>

特定非営利活動法人 礎の石孤児院

HIV 孤児のための教育支援

ザンビア ルサカ州 (2022 年 4 月～ 2022 年 9 月)

助成額：934,356 円

活動の概要

ザンビアには 140 万人の孤児がいると言われています。また、首都ルサカのスラムの人口は約15万人であり、その半数が子ども人口、そのうち6～7人にひとりが孤児であると言われています。

団体は、孤児の中でも特に困難な状況に置かれている HIV 孤児(親を HIV で亡くした、または本人も陽性の孤児)のための学校を運営し、無料の初等教育の提供、朝食・昼食の提供、保護者・児童を対象にしたカウンセリングを行っています。



(写真1) 日本人ボランティア（左）による
そろばん授業の様子



(写真2) 子どもたちの学習の様子

Report

今回の活動では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、4月～9月まで開校することができました。現在受け入れている69名の子どもに月曜日から金曜日まで授業を行いました（写真1）。ほとんどの児童が英語を話せない状態で入学しますが、ザンビアの社会では英語ができないと就職も困難になるため、学校内では徐々に現地の言語を用いてのコミュニケーションを減らし、段階的に100%英語を目指していくとしています。現在では子どもたちが英語で会話する様子が見られるようになっていきます。

その他、スポーツ大会、アフリカの自由を祝う催事、国際空港訪問等、自国の文化を学び、世界に触れることができるような様々な活動を行うことができました。

学校では、給食（朝食と昼食）を提供しています（写真3）。子どもたちは日々の給食を楽しみにしていて、多くの子どもはそれを励みに学校へ通っています。

子どもたちの保護者の中にもHIV陽性者や心臓疾患等の健康上の問題を抱えている人が多く、子どもたちはそのような保護者の健康・経済状況によって、親戚をたらい回しにされ、教育の機会が途切れてしまうことがあります。子どもが継続して学校に通えるよう、保護者への医療費、家賃、食糧等の支援を行うとともに、カウンセリングを行いました（写真5）。



（写真3）給食の様子



（写真4）日本人スタッフ（右端）と生徒たち



（写真5）保護者に対するカウンセリング

現地の方々の声

学校に入る前は、毎日お腹が空いていて、妹は辛くてよく泣いていましたが、今はふたりでお腹いっぱい給食を食べられるのが嬉しいです。勉強も、難しいけれど楽しくて、これからもっと頑張って勉強して、将来は学校の先生になりたいです。（小学校5年生・男子生徒）

特定非営利活動法人 礎の石孤児院

住所：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-14-1クレインズヒル岩崎201

URL：<https://cornerstone.or.jp/>

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

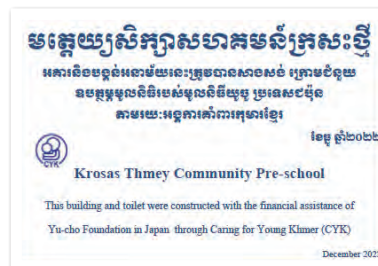
新規「村の幼稚園」 園舎・トイレ建設と 保育者の研修事業

カンボジア コンポンチュナン州コンポントラッ郡チョウクソー地区クロサス・トゥメイ村（2022年4月～2023年3月）
助成額：978,447円

活動の概要

カンボジアでは、ポルポト政権や内戦によって教育の施設や人材が壊滅的な状態となり、内戦終結後にゼロから再建する必要がありました。さらに、カンボジアは現在でも貧困が深刻な問題となっており、このような再建を妨げています。特に、農村部では幼稚園のない村が多く、幼児期に質の高い教育とケアを受ける機会のない子どもたちが多数存在しています。

団体は、こうした子どもたちの権利が満たされていない状況を改善するため、特に農村部を中心に幼稚園の建設を行い、4年目以降に地域が自立して幼稚園を運営できるようになるまで運営を支援する取り組みを行っています。



(訳) クロサス・トゥメイ
地域幼稚園
この建物とトイレは、幼
い難民を考える会（CYK）
を通じ、日本のゆうちょ財
団の資金援助により建設さ
れました。

2022年12月

(写真1) 完成した園舎に取り付けられたゆ
うちょ財団の名前のプレート



(写真2) 助成によって建設された園舎（右）とトイレ（左）

Report

今回の活動では、幼稚園に通っていない子どもの率が71%あまりと低い地域である、コンポントラッ郡にあるクロサス・トゥメイ村に、幼稚園を建設しました（写真1、2）。この村にはこれまで幼稚園がありませんでしたが、新しい幼稚園に27名の子どもたちが入園できました（写真3）。また、子どもたちに適切な教育ができるよう、保育士の育成も行っています。幼稚園の開所前に約一か月程度基本的な研修を受けてもらい、実際に保育に携わるようになった後でも、月に一度団体がモニタリングをしてきめ細かく指導を行いました（写真5）。



(写真3) 開園式の様子



(写真4) 人形で遊ぶ子どもたち



(写真5) 研修修了証書を手にする保育者

現地の方々の声

- ・新しく建設された園舎は、とても清潔で快適です。こんなにしっかりとした建物で立派な幼稚園はなく、大変うれしい。（開園式に参加した保護者）
- ・子どもたちは、クラスの飾りつけや壁に貼られたポスター、休み時間にいつでも使える教材などに興味深々で、手に取って眺めたり、使い方の説明をよく聞いたりしてよく遊んでいます。特に小学校の子どもが、今まで見たことのないたくさんの教材があるので、毎日休み時間に保育室を覗きに來ています。（新しくクロサス・トゥメイ村の幼稚園の保育者になった女性）

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

住所：〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3階B室

URL：<https://www.cyr.or.jp/>

NPO 法人 YOU&ME ファミリー

学校（中等教育）での貧困層生徒を対象とした 職業訓練指導の持続可能な運営を目指して

バングラデシュ ガジプール県（2022年4月～2023年3月）

助成額：738,270円

活動の概要

団体がバングラデシュで設立し支援している「YOU&MEインターナショナルスクール」（写真1）は、主に貧困層生徒を対象に、子どもの多様性を認め自分らしく生きられる教育を目指し、生徒が楽しみながら個性を伸ばす日本の教育を取り入れた独自の教育を展開しています。

団体は、このような教育の一環としてクラブ活動を取り入れ、職業訓練として、洋裁の技術を学べる「洋裁クラブ」（写真2）とパソコンの技術を学べる「パソコンクラブ」（写真3）の二つのクラブ活動を運営しています。



（写真1）YOU&MEインターナショナルスクールの生徒たち



（写真2）洋裁クラブの様子

Report

洋裁クラブの活動では、校内担当教師2名と洋裁専門講師1名が生徒の訓練指導にあたり、生徒は布地裁断方法、電動ミシン扱い方、簡単な作品の作成などの技術を取得することができました。またこの活動は評判を呼び、保護者や地域女性も訓練に興味を持ち生徒として参加しました。

パソコンクラブの活動では、パソコン専門講師1名が熱心に生徒を訓練指導し、1年間で3コースのクラス（各コース6名）を実施することができました。またパソコンクラブ収益化のための夜間大人パソコン教室は、10月より開始でき、2コース実施することができました。

本年度は、洋裁クラブ、パソコンクラブとも、持続可能な運営を目指し、収益を上げることを目標に活動を行いました。まず洋裁事業では、枕カバーやベッドカバー、女性用民族衣装等を近隣商店で販売し、支援校の

制服も作成し学校生徒に格安で販売しました。パソコンクラブでは、生徒のクラブ活動、夜間大人教室とも月謝を徴収しています。両クラブともに、今後は収益の中から各講師の給与をまかなうことを目指します。



(写真3) パソコンクラブの様子



(写真4) 夜間大人パソコン教室の様子



(写真5) 生徒が作った作品

現地の方々の声

この洋裁クラブの活動がとても楽しいです。マキシ（部屋着）を作ることができるようになりました。裁断するときはドキドキするけど、上達するのが嬉しいです。将来はこの技術を使って、できたら自分の店を開いて自立したいです。私には父はいませんが、母は私がここで洋裁を学んでいることをとても喜んでくれています。母のためにもがんばりたいです。（ショカルさん7年生）

NPO法人 YOU&MEファミリー

住所：〒340-0043 埼玉県草加市草加1 -3-4

URL：<http://youandmebangladesh.org/>

特定非営利活動法人 Little Bees International

循環型社会形成を目指したリサイクルバッグの製作による 貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業

ケニア ナイロビ市コロゴッチョ（2022年4月～2023年3月）

助成額：991,000円

活動の概要

ケニアの首都ナイロビでは、大規模なインフラ整備・開発が進む一方、極端な貧富の差が拡大し、失業率も高止まりのまま、住民の30%が1日1.9ドル以下の最貧困ラインでの生活を余儀なくされています。さらに、貧困住民10人のうち4人がHIV陽性と言われ、またその内5割近くの女性がシングルマザーです。貧困家庭の子どもたちも4割近くが学校に通えない状況にもあります。

団体は、HIV陽性やシングルマザーの女性たちの収入向上と自立を目指し、女性グループ「Korogocho Smart Women Group」を立ち上げました。現在、約40名の女性がリサイクルバッグの製作・販売をしています。



(写真1) 縫製作業をする女性



(写真2) 縫製作業をする女性

Report

本年度の活動では、ナイロビ市のジーンズ工場から排出されるデニムの余剰生地などを材料に、子どもたちのためのスクールバッグを女性たちが縫製し（写真1、2）、販売しました。スクールバッグは、子どもたちにも無償配布もされていますが、製作したバッグには、「Stop Child Labors!」や「Stop DV」といったメッセージ（写真4）をつけ、貧困層へのアドボカシー効果も狙っています。ケニアでは2017年9月からビニール袋が使用禁止になっており、女性たちはエコバッグの製作にも力を入れました（写真3）。バッグの売り上げを向上させるため、コミュニティに隣接した市場に自前の販売所を設置しました（写真5）。現在、この販売

所で月に約20～30個のバッグが売られています。

また、裁縫スキルのない女性たちも参加しやすいように、裁縫の専門家による研修を実施しました。スキルの向上だけでなく、参加する女性たちの横の連携を図り、相互扶助の連帯も深めています。



(写真3) 製作したエコバッグと女性たち



(写真4) カラフルなアドボカシーメッセージ



(写真5) コミュニティのマーケットに隣接する販売所でバッグを売る女性

現地の方々の声

“Korogocho Smart Women Group”（女性グループ）での活動は、わたしにとって大切な日々の生活の一部となっています。物価の値上がり、子どもたちの教育費の値上がり、暴動と、日常的に多くの問題がありますが、作業場でみな顔が見られると、とてもほっとします。もっと裁縫の技術が上手になるようがんばります。ゆうちょ財団様のご支援に心から感謝いたします。（30代 HIV陽性シングルマザー）

特定非営利活動法人 Little Bees International

住所：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-40-21

URL：<https://www.littlebeesinternational.org/>

特定非営利活動法人 LOOB JAPAN

資源循環社会の形成に向けたごみ処理場 コミュニティのユースリーダー能力強化

フィリピン 西ピサヤ地方イロイロ州イロイロ市（2022年4月～2023年3月）

助成額：978,420円

活動の概要

フィリピンの人口50万人のイロイロ市では、市民へのごみの分別・リサイクルの教育が遅れており、大量の廃棄物・プラスチック等の資源ごみが路上や海岸に投機されています。資源ごみの回収は、ごみ処理場周辺に住むウェストリサイクラー（※1）が担っています。

団体は、環境意識を市民へ広めていくことを目的として、高校生・大学生を中心に、リーダーシップトレーニングや環境教育を実施し、社会を変えていけるユースリーダーを育成するとともに、ウェストリサイクラーの就労環境の改善も行っています。

※1：市や業者に雇用されてはならず、未分別ごみを手で分別し、有価物を地域のジャンクショップに売却することで収入を得ている。



（写真1）ユースリーダー研修に参加した若者たち

Report

今回の活動では、ごみ処理場コミュニティ出身の高校生・大学生をリーダーとして育成することで、廃棄物問題を抱えるコミュニティから若手リーダーを創出することを目的として、廃棄物問題について発信するために必要な知識と能力を身に付けるトレーニングを実施し、20人が参加しました（写真1）。

また、活動地の市内に環境モデル校を作り、これらのモデル校を含む高校6校において、生徒が廃棄物問題を的確に理解し、自分のこととしてアプローチを考える啓発を行いました（写真2）。この一環として、オンライン事前研修を経て、実際に市内のごみ処理場を一般の高校生が訪問することができました。そして、事後研修として、エッセイコンテストを実施しました。

基本的な衛生設備が整っていない環境で働くウェストリサイクラーの就労環境の改善としては、手洗い水道施設（足踏み水タンク）を4カ所設置したほか、マスク・消毒液等の衛生キットを250世帯へ配布しました（写真5）。また、彼らの生計支援となる廃棄物のアップサイクル製品作り（※2）のワークショップを開催し（写真3、4）、サステナブルな経済を模索したアイデアソン（※3）を実施しました。

※2：不要なものや廃棄物に新たな価値を加え、より価値の高い製品を生み出すこと。

※3：アイデアとマラソンを組み合わせた造語。特定のテーマについてグループ単位でアイデアを出し合い、その結果を競うイベント。



（写真2）環境教育の様子



（写真3）日本人専門家によるアップサイクルのワークショップ



（写真4）若年層をターゲットとしたアップサイクル製品



（写真5）衛生キットの配布

現地の方々の声

リーダー育成プロジェクトに参加したのは、自分がゼロウェストについてもっと学び、同世代の子たちをエンパワーしていくことができると思ったからです。以前は、町全体の廃棄物問題についてよく知りませんでした。しかしこのプロジェクトで環境問題への改善意識が強い多くの人と出会いました。リーダーとしてこれからも地域の課題にアクションをとっていきたいと思います。（ユースリーダー研修の参加者（18歳））

特定非営利活動法人 LOOB JAPAN

住所：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目24-4 井川ビル2F

URL：<https://www.loobinc.com/>

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

自立支援施設「若者の家」での特別な保護を必要とする子どもたちの保護および教育・生活支援

フィリピン マニラ首都圏カラオカン市（2022年4月～2023年3月）

助成額：992,200円

活動の概要

フィリピンでは、経済成長が達成される一方、貧富の差は大きく、格差是正は進んでいません。また、しつけとして体罰や暴力が行われがちなフィリピンにおいて、暴力や虐待にさらされる青少年、家庭から逃げ出し路上生活を余儀なくされる青少年、経済的な理由で学校に通うことができない子どもの存在など、子どもの権利が十分に保障されていません。このような状況において、団体は、7歳～18歳までの特別な保護を必要とする子どもを自立支援施設「若者の家」で保護し、インフォーマルな教育と衣食住を提供しています。



(写真1) 「若者の家」の中での授業風景



(写真2) 医師による問診

Report

今回の活動では、新たに13名の子どもを「若者の家」に受け入れました。公教育を受けられる子は学校に通い、そうでない子どもには「若者の家」で教員が補習授業を行いました（写真1）。また、「若者の家」の中で教員やハウスペアレントが子どもたちの学習や宿題のフォローアップを行った結果、子どもたちの学習成績は向上し、子どもたち自身も熱心に勉強しました（写真3）。このほか、絵画、音楽、バスケットボール、映画鑑賞など子どもとしての時間を過ごせる様々な活動（写真4）も実施しました。

一方、身体のケアに関しては、医療系の団体との協力のもと、医師が「若者の家」を定期的に訪問し、歯科診療、眼科診療、身体検査などを行い（写真2）、必要な時にはオンラインでの診察も行いました。心のケアに関しても、ソーシャルワーカーや外部心理ケア専門家が、定期的なカウンセリングを行いました。これにより、子どもたちの自分自身や他者への理解が深まり、我慢強くなったり、自分の感情を上手にコントロールできるようになってきました。

さらに、家庭への復帰支援も行いました。子どもたちは家族と週に1回、週末に電話やビデオコールでコミュニケーションをとり、交流を続けています。活動期間中に保護者向け啓発活動を4回実施し、家庭内での課題解決、思春期の子どもの変化、子どもの権利などをテーマとして扱いました。この後、個別対応として、ソーシャルワーカーが参加保護者それぞれに若者の家での子どもの最新状況をお知らせするなどの取組みも行ないました。その結果、保護者自身も子どもの変化を感じていたようです。また、スタッフも保護者の状況を確認したり、家庭復帰後のフォローアップのため、家庭訪問を実施しました。12月には子どもたちと家族の交流のため、パーティーを実施するなど、家族と子どもたちとの関係性構築に尽力しました。

そして、行政と協力し、子ども・保護者共に準備が整った子どもたちの家庭復帰を支援しました。



(写真3) 「若者の家」での学習の様子



(写真4) 絵を描く子どもたち

現地の方々の声

「若者の家」に来る前にも学校へ通っていましたが、5年生は落第し、今は7年生です。今、学校に行けるのは楽しいです。授業も楽しいし、友達に会えることも嬉しいです。「若者の家」に来てからの変化は、家族のことがより分かるようになったし、色んなことに関してより広い理解が持てるようになりました。家族については、家族が自分に対して愛情やケアを持っていたことが分かるようになりました。あと、他の子といさかいが起こったときも、ケンカとか暴力で終わるのではなく、相手を理解するようになりました。そういうことはハウスペアレントやソーシャルワーカーが僕と話してくれたり、一緒に住んでいる他の子どもからも学びました。（「若者の家」に住む15歳の少年）

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

住所：〒161-0033 東京都新宿区下落合4-3-22

URL：<https://knk.or.jp/>

特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会

栄養不良児のフォローアップ強化と栄養改善

カンボジア プレアピヒア州ドゥバエンミエンチェイ郡8 コミューン 39 村 (2022 年 4 月～ 2023 年 3 月)

助成額：966,260 円

活動の概要

プレアピヒア州はカンボジア国内において、最も栄養不良の子どもたちが多くとされている地域です。カンボジアにおける子供の栄養状態については、慢性的な栄養不良児が多いのが特徴です。

団体は、この州で保健センターや保健ボランティア、自治体といった地域の人々と協力しながら、子どもの健康を守る活動をしています。具体的には、子どものケアについての住民の知識や行動が改善され、住民に最も近い医療機関である保健センターのスタッフが、栄養不良の子どもを早期に発見し、適切に対応できることを目指してサポートを行っています。



(写真1) 身長測定の様子



(写真2) 女性子ども委員会へのサポートの様様

Report

本年度の活動では、活動地の39村における乳幼児健診と離乳食教室について、自治体組織である女性子ども委員会の乳幼児健診や離乳食教室の実施スケジュール作成や予算の獲得について、団体がサポートを行った結果（写真2）、すべての集合村において、離乳食教室の予算を獲得することができました。

次に、乳幼児健診と離乳食教室の実施（写真1、3）にあたっても、実際に携わる保健センタースタッフや保健ボランティアをサポートし、参加した妊産婦さんやお母さんたちへ、保健教育や離乳食教室を通じて、栄養をとってもらふことの大切さを伝えました。そして、対象としている39村全村において、5歳未満の子どもを対象に、1回以上の乳幼児健診と離乳食教室を実施することができました。また、低体重児の子どものお母さんも家庭の食事情・栄養行動は同じ傾向となり、お母さん自身も低栄養の確率が高いことから、お母さん

たちのBMI測定（※）も実施して栄養の大切さを理解してもらう意識づけを行いました。その他、子どもが病気になった時のケアが十分ではないという調査結果を受け、保健教育の教材の見直しについて州保健局に働きかけを行いました。

乳幼児健診でとりわけ重度の低体重児と判断されて保健センターに報告される子どものフォローアップや戸別訪問を試験的に実施しました（写真4）。その他、州保健局と協力して、栄養不良時の子どもに与えられる栄養補完食（治療食）に関するトレーニングを保健ボランティア・女性子ども委員会へ実施するように働きかけ、実施に至りました。

※：Body Mass Indexの略で、身長と体重から簡単に求められる世界共通の肥満・低体重を判断する指標。



（写真3）離乳食教室の様子



（写真4）重度低体重児の子どもの訪問・ミルク支援

現地の方々の声

- ・自分の子どもが健康かどうか知りたいので、乳幼児健診が開催される際は必ず参加しています。（乳幼児健診・離乳食教室に参加した養育者）
- ・初めは保健教育などの参加率が悪かったのですが、だんだんと信頼を集めて、今では村の人たちが集まってくれるようになりました。最近では先生と呼ばれることもあります。（保健ボランティア）
- ・以前まで保健ボランティアとして活動しており、現在は女性子ども委員になりました。大勢の人の前で離乳食の作り方を教えるのは緊張しますが、村の子どもたちが健康でいられるよう私も頑張ります。（女性子ども委員）

特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会

住所：〒111-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル5F

URL：<https://share.or.jp/>

特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会

家事使用人として働く少女のための 支援センター運営活動

バングラデシュ ダッカ市（2022年4月～2023年3月）

助成額：992,412円

活動の概要

バングラデシュの首都ダッカに約11万人の家事使用人として働く子どもがいますと言われています。これらの家事使用人として働く子どもの多くは少女で、貧困を理由に農村から出てきて働き先に住み込み、料理、掃除、洗濯、子どもの世話などに一日中追われ長時間労働に従事しています。その結果、学校に通い教育を受ける機会が奪われています。また、家庭という閉ざされた環境下で雇い主からの暴力や性的嫌がらせを受けやすく、労働条件は劣悪です。

団体は、家事使用人として働く少女のための支援センターをダッカ市内に3カ所運営し、こうした少女に簡単な読み書きや計算、保健衛生の知識を教えています。そして、14歳未満の少女には学校へ編入できるよう雇用主や保護者を促し、14歳以上の少女にはより労働環境のよい就業機会が得られるように職業訓練を実施しています。また、雇用主、保護者、自治会メンバーを対象に子どもの権利や「家事使用人に関する権利および福祉政策」（※）等について啓発活動を行っています。

※：2015年末にバングラデシュで閣議決定された政策



（写真1）基礎教育授業の様子



（写真2）技術研修の様子（ジュエリーづくり）

Report

今回の活動では、まず、少女たちへの基礎教育の提供として、18才までの少女を対象に3センターで、1回2～3時間、週5日、読み書き計算についての授業を行いました（写真1）。また、生活上必要な授業を行いました。

次に、少女たちへの職業訓練として、バングラデシュの労働法規上条件付きで就労が認められている14

歳以上の少女を対象に、手工芸品作り（写真3）、パーラー（美容）、ジュエリー作り（写真2）、縫製（写真4）、料理、縫物等に関する技能研修を3センターにて行いました。その結果、65%の少女が少なくとも一つの職業訓練を完了して修了証書を得ることができ、研修で得たスキルを活かして収入が得られるようになりました。

啓発活動としては、活動期間中、雇用主宅の訪問とスラムの保護者宅の訪問を頻繁に実施しました。また、雇用主を対象とした啓発ワークショップ、保護者を対象とした子どもの権利ワークショップ、自治会を対象としたワークショップを支援センターで実施しました。これらの機会に、雇用者には、少女達を定期的に支援センターへ通わすよう、また可能であれば学校にも通わすよう、働きかけました。また、保護者と学校の関係者をつなぐ連携ミーティングを実施したところ、関係を深める良い機会となり、結果としてセンターに通う少女のうち65%が学校に編入することができました。



（写真3）技術研修の様子（手工芸品づくり）



（写真4）技術研修の様子（ミシンがけ）

現地の方々の声

私は学校に通い始めなければならない年齢の時に、ダッカに働きに出されました。当時は、親も雇用主も私の教育や将来について関心を持っていませんでした。働き始めてから何年も経ったあとに、やっと支援センターで勉強をする機会を得ました。最初は何も覚えられず、勉強が難しかったのですが、今は常に新しいことを学ぼうとしています。ベンガル語で名前を書けるようになりましたし、簡単な本も読めるようになりました。今の雇用主はとても協力的で、家で勉強するための時間を与えてくれています。今後もたくさんのことを学んでいきたいです。（家事使用人として働く14歳の少女）

特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会

住所：〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田奉仕園内

URL：<https://www.shaplaneer.org/>

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

カンボジア バットンバン州カムリエン郡バン・レアン区プレア・プット村（2022年4月～2023年3月）

助成額：999,443円

活動の概要

プレア・プット村は、カンボジア・タイ国境沿いに位置し、カンボジア内戦等の結果残っている地雷ベルトの中にあります。地雷の撤去により、居住地周辺は安全に生活できるようになっています。しかし、農地を持たない貧困層は、タイへの出稼ぎやカンボジア国内の地主の畑で日雇い労働をして日当を稼いでいましたが、2020年以降新型コロナウイルスの感染防止のためにタイ国境が閉鎖され、出稼ぎで生活していた村人たちの収入源がなくなり、厳しい状況にさらされていました。

団体は、この状況に対し、村の中で収入源を確保するため、農地を持たない貧困世帯を対象に、家畜飼育支援として、飼育訓練と飼育に必要な家畜小屋を提供しました。そして、家畜を家畜銀行から貸出し、繁殖させ、貸し出した数と同数を返却してもらうことで、次の世帯へ継続して貸し出す取組みをしています。また、プレア・プット村に2014年に編入された地雷の残る山がある飛び地になったコミュニティに2015年団体が建設した学校で子どもたちに基礎教育をおこなっています。



(写真1) ヤギを飼育する村人



(写真2) ヤギ飼育のモニタリングをする農業専門家

Report

今回の活動では、家畜飼育支援としては、団体スタッフが2ヶ月に1度、ヤギ飼育40世帯へモニタリング調査を実施しました（写真1、2）。そして、農業専門家がヤギの感染症や繁殖に問題のある世帯を訪問し、飼育方法に関してアドバイスをしました。その結果、村人たちは、近くの地主の畑での日雇い労働にも従事しながら、ヤギの販売により村内で収入も得られるようになってきています。

一方、基礎教育支援としては、村の小学校が遠いために通えない子どもたちのために、2015年に団体が建設した学校に教員1名を派遣して24名の子どもたちに基礎教育を施しました。子どもたちは、3歳から10歳ぐらいまでの年齢で、幼稚園児には、歌や踊り、集団での遊び、お絵かき、クメール語の読み書きの教育を行ない、小学校1、2年生には、算数、国語、社会の授業を実施しました（写真3）。生徒一人一人へ丁寧に先生が教えており（写真4）、公立の学校では読み書きができなかった子どもたち2名も、この学校に編入し、数ヶ月で読み書きができるようになりました。そして、学年末統一テストにおいて、全員一定レベル以上の良好な成績を収めることができました。



（写真3）学校での授業風景



（写真4）クメール語の文字を一人一人丁寧に教える先生（左）と生徒（右）

現地の方々の声

畑仕事などの日雇い労働がなく、収入がない時や、緊急でお金が必要になった時に、ヤギを販売して収入を得ることができるようになり、とても助かっている。これまではお金がなく、食べ物がなければ、タイへ出稼ぎに行くか、借金をするしか方法がなかったが、今はヤギを1頭販売することで、収入を得ることができる。（村人）

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

住所：〒600-8191 京都府京都市下区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

URL：<https://www.terra-r.jp/>

特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン

難民キャンプにおける学習支援と 心理社会的サポートを通じた子どもと家族支援

レバノン バイルート市シャティール難民キャンプ・ブルジバラジネ難民キャンプ（2022年4月～2023年3月）
助成額：1,000,000円

活動の概要

レバノンには、70年以上前から約20万人のパレスチナ難民が住んでいますが、2011年のシリア内戦以降、約85万人のシリア難民と約2万8千人のパレスチナ人シリア難民が生活し（2021年時点）、国の人口の4人に1人が難民という世界でも大変な状況が続いています。加えて、2019年秋以降の経済危機、2020年8月にはバイルート港大爆発事故により多くの犠牲が出て、複合的危機状況にあります。

さらに、このような中、新型コロナウイルス感染症の流行により、レバノン全土の学校が一斉に閉鎖され、再開後においても、公教育が対面やオンラインで十分に受けられなかったりするなど、子どもが授業についていくことが困難になっていました。

団体は、子どもから大人まで多くの人々がストレスや不安を抱えて生活しているパレスチナ難民キャンプにおいて、子どもたちへの教育支援や家族も含めた心理社会的サポートを実施しています。



（写真1）英語のゲームをする児童と指導員



（写真2）学習支援クラスの指導員へ質問する子ども

Report

今回の活動では、子どもたちへの教育支援として、バイルート市に所在する2つのパレスチナ難民キャンプにおいて、そこで暮らす小学校1～3年生のパレスチナ難民やシリア難民の子どもを対象に学習支援クラスを開講し、国連機関UNRWAの学校またはレバノンの公立学校のカリキュラムに沿って、学校の授業内容の復習や補助を実施しました（写真1、2）。一人一人の学習進度や理解状況を確認しながら、個々の子どものレベルに合わせて課題を出し、適宜個別に指導を実施しました。また、学習支援指導員はソーシャルワーカーとも連携しながら保護者との面談を行い（写真3）、家庭での学習環境の改善などを依頼することで、

様々な側面から子どもたちの支援を行いました。集中力が続かない、言葉をうまく発話できなくなるといったメンタルヘルスに関する問題が子どもに確認された場合には、現地で提携している児童精神科専門機関とも連携しながら家族への働きかけを行ったり、学校とも適宜コミュニケーションをとりました。

2022年7月、8月には夏期休暇期間を利用し、学習支援クラスでの前学期の復習を行ったほか、描画のアクティビティや屋外の公園への遠足やスポーツを実施しました（写真4）。

また、心理社会的サポートとしては、ソーシャルワーカー2名が難民世帯の自宅等へ出向き、のべ432世帯の家庭訪問・個別面談を行いました。個別面談では家族が抱える困難や悩みについて聞きとりを行い、経済的困窮や子どもの教育や育児、家族関係など様々な相談の内容に合わせて、助言や適宜専門機関への紹介を行いました。また、ソーシャルワーカーがファシリテーターとなり、少人数での保護者や親子を対象としたピアサポート活動(*)を実施しました。そのほか、自閉症の子どもを持つ保護者や学習障がいを抱える子どもの保護者向けの啓発ワークショップや、親子の信頼関係構築やストレス軽減を目指し、知育玩具等を用いて積極的に親子でコミュニケーションを取りながら実施できるアクティビティも実施しました。

※：「ピア」は英語のpeerで、仲間、同輩を意味する。ピアサポートは、苦しみや生きづらさを共有する仲間同士が互いを支え合うこと。



（写真3）ソーシャルワーカー（右）と母親の個別面談別面談



（写真4）難民キャンプ外の公園でボールを使ったスポーツを楽しむ子どもたちとソーシャルワーカー（左）

現地の方々の声

学習支援クラスでは、学習支援が受けられるのはもちろんですが、安全で信頼できる場所に子どもを送りだせるということが親としては非常に安心できて助かっています。学校で学んだ内容で分からない箇所や宿題について先生が丁寧にサポートしてくれるので、子どもの教育や将来への不安が大きく軽減されています。（パレスチナ難民小学2年生の母親）

特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン

住所：〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-23豊ビル4階

URL：<https://ccp-ngo.jp/>

特定非営利活動法人 地球市民の会

ウクライナ避難民支援特別枠

ウクライナからの避難民受け入れ生活 スタートサポート事業

日本 佐賀県佐賀市（2022年11月～2023年3月）

助成額：1,663,974円

活動の概要

ロシアの軍事侵攻により国外への避難を余儀なくされているウクライナの人々を支援するため、佐賀県、佐賀市、CSO（市民社会組織）（※）が連携し、ウクライナ避難民の佐賀への受け入れを進める避難民支援プログラム「SAGA Ukeire Network～ウクライナひまわりプロジェクト～」を立ち上げました。団体は、このプロジェクトの事務局を務めています。このプロジェクトでは、応募フォームを公開して、日本に身寄りのない方もSAGA Ukeire Networkが身元保証人になり積極的に受け入れるなど、「佐賀モデル」の避難民支援を実施しています。

佐賀では、避難民の方が佐賀に入ったその日から生活が始められる体制を整えています。具体的には、住居は佐賀県が提供し、家具は佐賀市やCSO(市民社会組織)を中心に、企業や個人からの寄付を集め、家財道具を一式提供しています。

※：Civil Society Organizationの略で、NPO法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会・町内会等の組織・団体を含めたものを指す。地球市民の会もCSOとしてこのプロジェクトの事務局を務めている。



(写真1) 佐賀における初日のオリエンテーションその1



(写真2) 佐賀における初日のオリエンテーションその2

Report

今回の活動では、応募フォームを公開した上で、オンライン面談によって状況を聞き取り、助成期間中に、より緊急性の高い4組12人の避難民を受け入れました。これを含め、活動開始以来、18組39名を受け入れたことになります。

避難民を佐賀に受け入れるにあたっては、身元保証書の送付、ビザ取得までのポーランドなどの近隣諸国での滞在費用、出国前72時間に必要なPCR検査費用の支援を行った他、佐賀までの飛行機チケットの手配等を行いました。このほか、各種のサポートや不足している家具・日用品などを支援しました（写真3、4、5）。



（写真3）入居する住居の清掃を行うSAGA Ukeire Networkスタッフ



（写真4）佐賀県提供の住居に家具を運ぶ団体インターン



（写真5）親子のために支給した自転車

現地の方々の声

何も必要なく日本にいられるこのような機会を与えてくださった皆様のご支援に心より感謝申し上げます。佐賀では、ベッド、家具、冷蔵庫、オーブン、洗濯機、キッチン家具、調理器具など何でも揃っています。改めて、ご支援に感謝したいと思います。（2022年11月に来日した避難民女性）

特定非営利活動法人 地球市民の会

住所：〒840-0822 佐賀市高木町3-10

URL：<https://terrapeople.or.jp/main/>

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

ウクライナ避難民支援特別枠

避難先への移動支援および避難民の生活支援

ハンガリー サボルチサトマル県ザーホニ市及びマリアポーチ村（2022年11月～2023年3月）

助成額：1,795,880円

活動の概要

ウクライナにおけるロシアの軍事侵攻により、ウクライナから列車で隣国ハンガリーに入国する避難民は、ザーホニ市にある駅を經由して首都ブダペストやヨーロッパ各地へ移動します。戦争が起きた直後、このような避難民への支援は複数の国際支援団体により十分にありましたが、半年後にはほとんどの国際支援団体が撤退してしまい、物資の不足が課題となっていました。

また、ウクライナとハンガリーの国境沿いのマリアポーチ村には、避難民の中でも経済的に余裕がなかったり、頼る人がおらず、首都ブダペストや西ヨーロッパに避難することが難しい人々が留まっています。ハンガリー政府からの支援はなく、地元の人々の支えによってなんとか生活を維持していますが、11月頃より厳しい冷え込みとなり、特に防寒や暖房についての支援が求められていました。

団体は、このような状況において、ザーホニ市の一時待機コンテナや一時宿泊施設に滞在する避難民に飲食物及び日用品の配布を行うとともに、マリアポーチ村に滞在する避難民に日用品や防寒具、暖房設備の供与を行いました。



(写真1) ザーホニ市の一時待機コンテナで団体スタッフ（右）がコンテナのスタッフ（左）に軽食や飲み物を渡している様子



(写真2) ザーホニ市の一時宿泊施設で、市長や施設スタッフ一同から支援への感謝としてお礼の品を受け取り、避難民の方々からのコメントを聞かせていただく団体スタッフ（左）

Report

今回の活動では、ザーホニ市において、軽食や飲み物(スープ、インスタント麺、スナック、ジュース、コーヒー、紅茶、甘味料等)を約1,800名分調達し、避難民が滞在する一時待機コンテナに供与しました(写真1)。また、寝具やタオル、衛生用品などの日用品を調達し、避難民の一時宿泊施設に供与しました。これらはコンテナ及び施設の常駐スタッフにより避難民に提供されました。

また、マリアポーチ村においては、洗剤、トイレットペーパー、掃除機などの生活用品を約30名分調達し、避難民滞在施設に供与しました(写真3)。支援物資の選定にあたっては訪問するたびにニーズに変化がないか聞き取り、その時々に必要なものを支援できるよう心がけました。こうした物資のみならず、歯医者にかかった代金も支援しました。防寒支援としては、衣類や寝具約10名分と電気式ストーブ3つ、それらを有効活用するための発電機1セットを調達し、避難民滞在施設に供与しました。ハンガリーでは光熱費が高騰しているため、太陽光発電ができるポータブル電源(写真4)を選ぶなど経済状況を考慮しました。



(写真3) マリアポーチ村の近くの大きな街の衣料品店で、避難民と団体スタッフが冬用のブーツを選んでいる様子



(写真4) ポータブル電源

現地の方々の声

移動の途中で疲れていたが、温かい食事により休むことができました。また、宿泊施設で不便なく過ごすことができ、この先も安全に移動をつづけることができます。(ザーホニ市の駅を経由した避難民)

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

住所：〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室
URL：<https://www.terra-r.jp/>

LIFT LIFE STANDARDS

ウクライナ避難民支援特別枠

ウクライナ避難民への食糧支援

ポーランド ドルヌイ・シロンスク県グロツワフ市（2022年11月～2023年3月）

助成額：880,000円

活動の概要

ウクライナにおけるロシアの軍事侵攻により、家を失ったり、生活インフラを破壊されてしまったウクライナの人々は、衣・食・住という生活の基本的な問題に直面しています。

団体は、もっとも緊急的に必要な食の問題に対応するため、ウクライナの隣国ポーランドにおいて、食糧支援を行いました。



(写真1) 活動地のポーランドでフードパックのパッキング作業を行う団体スタッフ



(写真2) フードパッキング作業場にてのウクライナ避難民ボランティアへの炊き出しの様子

Report

今回の活動では、現地（ポーランドのブロッツワフ）において、現地協力NGO（Centrum Pomocy Humanitarnej w Szegini）の施設で、フードパックのパッキング作業（写真1）と現地協力NGOスタッフに同行しての避難民への食糧の配布を行いました。また、同施設では、ウクライナ避難民のボランティアと一緒に活動し、彼らのための炊き出しも行いました（写真2）。

フードパックの内容は、塩・砂糖・小麦粉・パスタ・米・缶詰・レトルト食品・紅茶・お菓子などであり、1家族あたり1個で約1週間分相当になるフードパック400個を準備して（写真1）、ウクライナ人避難センターへ車で届けました。

現地の方々の声

- ・ 遠く離れた日本からも支援をしてもらっていることに感謝しています。ウクライナでは寿司が人気ですが、炊き出しで食べた日本のそばは初めてです。とても美味しかった。避難生活はストレスもあるし、ボランティア作業は大変ですが、いい気分転換になりました。（ウクライナ人ボランティア）
- ・ 持ってきてもらったような、日々必要な食糧の支援を非常にありがたく思いました。医療品や日用品といったものも慢性的に不足していますので、そういったものも日本から直接支援していただけたらと思います。日本とウクライナにはロシアと国境を接している国という共通点があります。今後、さらに日本との友好が深まってほしいと思っています。（ウクライナ人避難民）

LIFT LIFE STANDARDS（リフトライフスタンダーズ）

住所：東京都町田市小山町1216-1-103

URL：<https://www.lls-japan.com/>

NGO講演会等助成レポート

当財団では、NGO海外援助活動助成を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

2022年度は3団体へ助成いたしました。これらの団体からの講演会のもようについての報告をとりまとめました。

特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

助成した活動の概要

団体が2009年から取り組んでいる活動「Mother to Mother」は、「我が子を学校に通わせる収入がほしい」というカンボジアの母親と、「幼稚園や小学校で使う布小物の準備が大変」という日本の母親の、「布小物縫製」を通して助け合う取り組みです。こうした活動に対して、ゆうちょ財団は、2017年度から2021年度までの5年間にわたり助成を行いました。

■**支援活動**：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業

■**実施地域**：カンボジア シェムリアップ州バンテスレイ郡



(写真1) 英語のゲームをする児童と指導員



(写真2) 日本の幼稚園での縫製製品販売風景

イベントの状況

開催日等

1. 開催日：2022年6月16日（木）
2. 実施方法：オンライン会議
3. テーマ：「Mother to Mother活動報告会」
4. 参加者：日本39名、カンボジア12名、カンボジアのお母さんたち
5. 内容：意見交換会

イベントの概要

今回のイベントに参加した私立啓明学園高校は、団体に協力している学校の一つで、「STICHES FOR RICHES」という活動をおこなっています。これは、生徒たちが中心となり布を集め、裁断し、カンボジアへ送り、それをカンボジアのお母さんたちが巾着やバッグに縫製して、それらを日本で生徒たちが文化祭で販売する活動です。売上金は団体を通じて制服や文具の購入費としてカンボジアの母親達に支払われます。

今回のイベントは、「STICHES FOR RICHES」に取り組んでいる啓明学園の高校生及び普段この活動とはかかわりのない同校生徒約40名とカンボジアで縫製にあたっているお母さんたちとをオンラインでつなぎ、新型コロナウイルス感染症の流行のために3年間対面で伝えることができなかった活動に関し意見交換等を行いました。

①アジアの子どもたちの就学を支援する会理事長による啓明生への話

Mother to Motherの一環として取り組んでもらっている啓明学園の活動について話しました。

②啓明学園による普段高校で取り組んでいる活動報告

パワーポイントを使って生徒がどのように活動に取り組んでいるかを具体的に報告しました。

③カンボジアのお母さんたちの日ごろの活動の様子

代表のお母さんによる簡単な報告と、写真による生活の様子を報告することができました。

④啓明学園の生徒さんからお母さんたちに質疑応答

カンボジアでの仕事の進め方、仕事量、どのように役立っているかなどを質問した結果、活動がとても役立っている様子が伺えました。

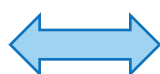
⑤カンボジアのお母さんたちから啓明学園の生徒さんへの質疑応答

「売れていますか」という質問があったので、実際に使っているカバンを見せることができました。

日 本



(写真3) 啓明学園高校の生徒さんたち



オンライン接続

カンボジア



(写真4) カンボジアの母親たち

参加者の感想

- ・前々から参加したかったが、ボランティア活動の報告会があると先生から聞いて友達と参加しました。とても素晴らしいシステムだと再認識できると同時にぜひかかわりたいと思いました。
- ・自分たちの行っている活動の再確認そして改めてこのボランティアの大切さを学びました。私たちのボランティアが役に立っていることが実感できてやりがちを感じ感極まって泣きそうになりました。
- ・この会をきっかけに私も活動に参加して文化祭などで販売しカンボジアの力になりたいです。
- ・イメージでしか現地の状況を知らずに本当に自分たちの行動が役に立っているのかどうか疑問に思う時があったが、このような機会で現地の人の声を聴けるのはありがたいです。
- ・写真などでカンボジアの様子を理解することができた。私もカンボジアに行ってみたいと思いました。

特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

住所：〒197-0825 東京都あきる野市雨間429番地（学校法人多摩川学園 多摩川幼稚園）

URL：<https://www.asap-cambodia.org/>

特定非営利活動法人 パルシック

助成した活動の概要

団体は、30年近くに及び内戦と2004年のインド洋津波の被害を受けたスリランカ北部の女性たちが収入を得る手段として、各家庭で眠っている古着のサリーをリサイクルしてバッグや衣類などの縫製品を作って販売する「サリー・リサイクル事業」に2012年から取り組んでいます。

ゆうちょ財団が、2020年4月から 2021年6月までの間助成を行った活動では、縫製技術が未熟なために多様な縫製品を作れず、収入がほとんど得られない女性を対象に縫製研修を実施しました。

■ **支援活動**：サリー・リサイクル事業に参加する女性の縫製技術向上研修及びフォローアップ活動

■ **実施地域**：スリランカ 北部州ジャフナ県、ムライティブ県



(写真1) サリーブラウス作りについての縫製研修



(写真2) 縫製研修で子供の採寸をするところ

イベントの状況

開催日等

1. 開催日：2022年7月7日（木）
 2. 開催場所：オンライン
 3. テーマ：「スリランカ経済危機：そこに暮らす人びとの今」
 4. 講師：田村智子様（開発コンサルタント）、Britto Johny Ajith様（元パルシックスリランカ北部地域代表）
 5. 参加者：183名
 6. 内容：①講演会、②交流会、③フェアトレード（※）製品の展示販売、④活動写真のパネル展示
- ※：Fair Trade（公平貿易）。開発途上国でつくられた農作物や製品を生産者の労働や生産に見合った適正な価格で継続的に取引することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。

講演の概要

1948年の独立以来最大の経済危機に直面しているスリランカについて、現地に暮らす2人のスピーカーが日々目にしていることや感じていること、人びとから耳にしていることを報告し、一般の報道ではあまり伝えられない、経済危機によって大きな影響を受けている人びとの暮らしについて伝えることを目的に開催されました。

最初のスピーカーの田村様からは、コロンボの状況、ここに至るまでの政治経済状況、社会背景、また都市部に暮らす人びとの生活についてご報告いただきました。政府の対外債務の推移、消費者物価指数などデータに裏付けられたマクロ面での社会経済の変化とともに、都市部に暮らす人びとが直面する困難、デモによる政府への抗議活動の状況などコロンボで日々起きていることについて詳細なご報告がありました。

つづいて、2人目のスピーカーのAjith（アジット）様からは、経済的に脆弱な地域であり、ゆうちょ財団から助成を受けて縫製研修を実施したスリランカ北部の漁村、なかでも内陸部のムライティブ県タンニムリップ村の人びとの困窮する生活の状況についてお話いただきました（写真3）。団体が長く活動してきた事業地で、アジット様も事業地の人びとと関係を培ってきたことから、状況を詳細に聞き取った結果のご報告でした。その中で、ゆうちょ財団の助成で2020年の新型コロナウイルス流行下において実施できたタンニムリップ村の女性たちへの研修の成果も伝えられました。



（写真3） Ajith様による現地報告の様子

参加者の感想

- ・ 現地の方の生の声が聞け、大変有意義な時間でした。
- ・ スリランカの現状が想像以上に深刻であることが分かりました。未来のために、子どもたちへの教育がいち早く復活することを願います。
- ・ ニュースでは一般論の報道が多く、また主にコロンボなどの都市住民の生活が紹介されていることが多いので、今回の講演会から細かな情報を把握することができました。
- ・ 国同士の支援、市民同士の支え合い、車の両輪だと思う。スリランカという国が大変だと報道されるともう規模が大きすぎて何もできないような気になる。支援があると信じたい。
- ・ スリランカの経済危機について詳しく知ることができました。自分が考えていたよりも深刻だった状況を詳しく教えてくださり、自分もこの状況を改善するために行動しようと思いました。現地の方のお話を聞いたのがとても良かったです。このような貴重な機会をありがとうございました。

特定非営利活動法人 パルシック

住所：〒101-0063東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1階

URL：<https://www.parcic.org/>

特定非営利活動法人 LOOB JAPAN

助成した活動の概要

フィリピンにある人口50万人のイロイロ市は、大量の廃棄物・プラスチック等の資源ごみが路上や海岸に投棄されています。環境意識を市民へ広めていくため、ごみ処理場コミュニティ出身の若者を中心に、リーダーシップトレーニングや環境教育を実施し、社会を変えていけるユースリーダーを育成しています。こうした活動に対し、ゆうちょ財団は、2022年度から1年間助成を行いました。

■支援活動：資源循環社会の形成に向けたごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化

■実施地域：フィリピン 西ピサヤ地方イロイロ州イロイロ市



(写真1) ユースリーダー研修の参加者たち



(写真2) ユースリーダー研修の参加者たちによるディスカッションの様子

イベントの状況

開催日等

1. 開催日：2022年7月9日（土）
 2. 開催場所：JICA地球のひろば（東京都新宿区市谷本村町10-5（JICA市ヶ谷ビル内））
 3. テーマ：「LOOB現地報告会～ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化～」
 4. 講師：特定非営利活動法人LOOB JAPAN 代表理事 小林幸恵様
 5. 参加者：29名
 6. 内容：①講演会、②交流会、③フェアトレード（※）製品の展示販売、④活動写真のパネル展示
- ※：Fair Trade（公平貿易）。開発途上国でつくられた農作物や製品を生産者の労働や生産に見合った適正な価格で継続的に取引することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。

■講演の概要

①講演会『LOOB現地報告会～ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化～』

本助成プログラム採択事業『ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化』においての現地活動の中途報告を目的として講演会が開催されました。特にゼロ・ウェイスト社会に向けた現地ユース活動やその他現地の活動について、LOOB JAPAN代表理事小林様よりお話いただきました。

②交流会

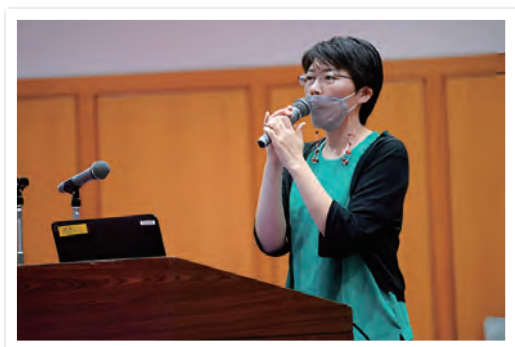
当日の来場者には、

- ・はじめてLOOBを知る方
- ・オンラインプログラムへの参加者
- ・LOOB JAPAN国内活動の参加者
- ・フィリピン現地スタディツアー、ワークキャンプなどの参加者

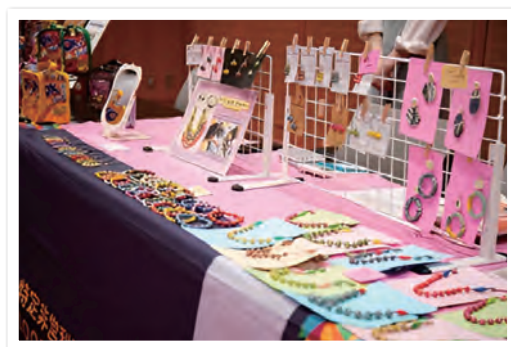
など、様々な関係性を持った方にご参加いただきました。来場者同士の親睦を深めることを目的とした交流会を実施し、LOOBのファンコミュニティの横のつながりの強化につながりました。

③フェアトレード製品の展示販売、活動展示

LOOBが取り組む「ごみはポップな宝物」事業のフェアトレード製品を中心に展示販売が行われました。また、活動写真をパネル展示し、本会の前後や交流会時にご覧いただき、本事業に関して理解を深めていただきました。



(写真3) LOOB JAPAN代表理事小林様による講演の模様



(写真4) フェアトレード製品の展示販売の模様

参加者の感想

- ・マニラのスモーキーマウンテンのことしか知らず参加しましたが、イロイロ市の状況をはじめ大変多くのことを学ぶことができた。
- ・LOOBの活動を通して将来に希望を持てる子どもがたくさん増えるといいと思いました。リサイクルに対する意識を変えるには、時間がかかるとは思いますが応援している。
- ・ディスカッションなどで色々な角度から一つの問題が掘り下げられて面白かった。
- ・久しぶりにLOOBのイベントに参加できて嬉しかったです！現地で今も活動を続けている人のリアルな声を聞けて良かった。
- ・LOOBのことは以前から知っていたが、現地に根付いているNGOであるため、現地のリアルを反映した内容になっており、とても勉強になった。

特定非営利活動法人 LOOB JAPAN

住所：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目24-4 井川ビル2階 ソーシャルビジネスラボ

URL：<https://www.loobinc.com/>

NGO海外援助活動助成のこれまでの実施状況等

1. NGO海外援助活動助成制度の変遷

(1) 郵政民営化後の変化

2007年に、郵政民営化に伴う「郵便貯金の利子の民間海外援助事業に対する寄附の委託に関する法律（平成26.29法律第72号）」の廃止により、国際ボランティア貯金の取扱いは終了し、それまでに発生した寄附金（総額21億円）を独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構（現・独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構）が承継し、同機構がNGO（民間海外援助団体）への配分・監査等を実施することとなった。そして、ゆうちょ財団は、2011年度から2014年度まで、同機構から監査等に係る業務を受託した。

2008年には、ゆうちょ銀行が「ゆうちょボランティア貯金」のサービスを開始し、お客さまからお預かりした利子の一部を独立行政法人国際協力機構（「JICA」という。）の「世界の人びとのためのJICA基金」に寄附することとなった。

(2) NGO海外援助活動助成制度の創設

国際ボランティア貯金の取扱い終了に伴い、寄附金残高が近年中に払底することから、寄附金の配分を通じた草の根国際貢献活動支援は、早晚終了するものと想定された。一方、このような国際貢献活動は国際社会から一段と強く求められており、これまで当該寄附金による海外援助活動を行ってきたNGOの多くは、引き続き国際貢献活動を継続していくための新たな援助資金の確保に迫られていた。そこで財団としては、これまでの国際ボランティア貯金寄附金の配分支援・監督業務等のノウハウを生かして、独自の草の根国際貢献支援事業を行うことも必要ではないかと考え、一般財団法人への移行にあたり「寄附金配分団体が国内で開催する海外事業活動報告会、講演会の経費の一部を引き続き支援するとともに、この支援を拡充し、寄附金配分団体が実施している事業に必要な経費についても支援の対象とする」こととした。そして、2012年に、財団独自の助成制度（NGO海外援助活動助成）を創設し、同年11月1日から募集を開始した。

(3) NGO海外援助活動助成制度の変遷

ア JICA基金の支援を受けている団体受けた事業を対象に追加

ゆうちょ銀行が2008年10月から取り扱いを開始している「ゆうちょボランティア貯金」に係る利子については、JICA基金を通じてNGOに対する支援のために使われていることから2016年に、JICA基金の支援を受けている団体受けた事業もNGO海外援助活動助成の対象に追加した。

イ 200型の実施

2017年には、事業を行う国を指定し、1団体200万円まで助成する募集（200型）を実施した。これは、財源の関係で、ミャンマーを指定した2018年度助成のみの実施となった。

ウ S枠〈大規模団体枠〉・J枠〈小規模団体枠〉の区分の導入

2019年度助成からは、NGO団体を規模に応じてS枠（直近2年間の収入平均が5,000万円以上の団体）とJ枠（直近2年間の収入平均が5,000万円未満の団体）に分けて募集・採択する方法を導入した。これは、「JICA基金」による支援は、事業収入3,000万円以内の比較的小規模の団体に対して100万円以内の金額内で実施されており、このようなJICA基金の支援先団体への助成を強化するため、大規模団体枠と小規模団体枠を別に設け、審査することとしたものである。

また、申請する活動が、旧国際ボランティア貯金の寄附金配分又はJICA基金の支援を受けて実施した活動と異なっている場合でも、大きな目的を共有する同じ事業に含まれていれば助成対象とする改善を実施

した。

エ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響への対応

2020年度及び2021年度助成案件については、国内外の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、それぞれ活動期間を最長1年延長した。

オ S枠〈大規模団体枠〉の廃止等

2024年度助成からは、助成対象となる団体の要件に、「直近2年間の収入平均が5,000万円未満の団体であること。」を追加し、これにより、従来S枠として申請を受け付けてきた直近2年間の収入平均が5,000万円以上の団体を助成対象外とした。また、助成対象となる団体の要件で、当財団の「NGO海外援助活動助成」を受けた回数に関し、それまでは「5年間(5回)助成を受けた場合は、その後、原則3年間助成申請できない。」となっていた要件を「3年間(3回)助成を受けた場合は、その後、原則3年間助成申請できない。」に変更した。

(4) ウクライナ避難民支援

2022年2月のロシアによるウクライナへの侵攻により、多数のウクライナ国民が戦禍を逃れて国内外に避難をしており、支援の手を必要としていることから、NGO海外援助活動助成にウクライナ避難民支援特別枠を設けて申請を募集することとした。2022年9月に申請を受け付け、3件を採択した。これら3団体は2022年11月から2023年3月まで活動を実施した。

2023年度においても、ウクライナ避難民支援特別枠の申請を募集し、2023年8月に4件の申請を採択した。これらの団体は8月から活動中である。

2. 2024年度「NGO海外援助活動助成」募集要項（抜粋）

当財団においては、「旧国際ボランティア貯金」の寄附金配分又は「JICA基金」の支援を受けた事業に対して、いずれの支援もその原資に郵便局で取り扱った貯金等に附随する寄附金が含まれていることから、その事業が円滑かつ継続的に行われるよう助成を行ってきました。

2019年度活動の募集から、申請する活動が、過去に「旧国際ボランティア貯金」の寄附金配分又は「JICA基金」の支援を受けて実施した活動と異なっている場合でも、大きな目的を共有する同じ事業に含まれており、かつ同一国内において実施するものであれば、助成対象としています。なお、「事業」とは、同じ目的の下で実施されている個々の「活動」をまとめたものと定義します。

※ 募集要項及び申請書等の提出書類一式は当財団ホームページよりダウンロードしてください。(https://www.yu-cho-f.jp/international/ngo_grant.html)

(1) 申請期間

2023年10月1日（日）～ 2023年10月31日（火）

郵送書類は当日消印有効、その他の電子メールでご提出する書類は期限までにご提出ください。

(2) 活動実施期間

2024年4月1日～ 2025年3月31日

(3) 助成金の支払い

活動開始時に半額を交付。活動が完了し、完了報告書の監査終了後に清算し残額を交付。

《2023年度募集における主な変更点》

1. 助成対象となる団体の要件に、「直近2年間の収入平均が5,000万円未満の団体であること。」を追加しました。これにより、従来S枠として申請を受け付けてきた直近2年間の収入平均が5,000万円以上の団体は助成対象外となります。但し、2023年度助成が決定し活動中の団体に対する助成に影響はありません。
2. 助成対象となる団体の要件で、当財団の「NGO海外援助活動助成」を受けた回数に関し、従来は「5年間(5回)助成を受けた場合は、その後、原則3年間助成申請できない。」としていましたが、これを「3年間(3回)助成を受けた場合は、その後、原則3年間助成申請できない。」に変更しました。

《助成金の上限》

助成金は活動に直接かかる経費及びその活動に関する日本国内でのプロジェクト管理費（助成金額の20%が上限）とし、助成金額の上限額は1件あたり100万円とします。（自己資金部分も含めた活動の総額に制限はありませんが、自己資金部分の調達に十分な見通しが立っていることが要件となります。）

また、助成金総額は1,000万円で、採択件数は10件程度となっています。申請内容によっては変更する場合があります。

【助成対象となる団体の要件】

次の要件をすべて満たす団体を対象とします。

- (1) 「旧国際ボランティア貯金」の寄附金配分又は「JICA基金」の支援を受けた事業を実施した団体であること。（日本国内事業を除く。）
- (2) 直近2年間の収入平均が5,000万円未満の団体であること。
- (3) 日本国内に事務所を置き、かつ、代表者が定められ、意思決定及び事業実施の責任が明確であること。
- (4) 適切な会計処理が行われていること。
- (5) 他の援助団体に対して、助成を行っていないこと。他の援助団体に助成していることが判明した場合は、助成を取りやめることがあります。
- (6) 過去の助成事業の実施において、重大な問題がなく完了させていること。
- (7) 活動内容等の照会等に対し、郵便、電話、電子メールにて円滑に連絡・回答ができること。
- (8) 反社会的勢力でないこと。
- (9) 当財団の「NGO海外援助活動助成」を受けた回数が団体として3年間(3回)以内であること。(3年間(3回)助成を受けた場合は、その後、原則3年間助成申請できない。)
- (10) 当財団が実施する活動の進捗伺い、国際協力報告会、周知活動、国内事務所訪問、現地視察等に参加、協力できること。

【助成対象となる事業の要件】

次の要件をすべて満たす事業を対象とします。

- (1) 過去に「旧国際ボランティア貯金」の寄附金配分又は「JICA基金」の支援を受けたことがある事業で、当該事業を継続する事業であること。（日本国内事業を除く。）
- (2) 活動内容に政治的又は宗教的行為(類似行為を含む)が含まれない事業であること。

【助成対象となる活動の要件】

次の要件をすべて満たす活動を対象とします。

- (1) 活動が、上記の事業に含まれ、かつ同一国内において実施するものであれば、新規の活動であっても差し支えありません。
- (2) 同一の地域で同一の活動にて他の助成制度から助成を受けている場合（申請中及びこれから申請する場合を含む）、経費が重複しないようにしてください。
- (3) 活動対象地や住民のニーズを十分に把握し、BHN(basic human needs：基礎生活分野)を充足させる活動であること。
- (4) 申請団体が主体となり、裨益者に直接実施する活動であること。
- (5) 申請時点で活動計画が明確であること。
- (6) 活動期間内に日本からの専門家又はスタッフを活動地に駐在させ又は派遣し、現地の人々と協力して行う活動であること。

また、日本から活動地に専門家又はスタッフを駐在・派遣していない期間には、Web会議等の通信手段により日本から遠隔で活動をコントロールし、実施できる活動であること。

- (7) 活動地の住民に対し、申請団体又はカウンターパートが教育、指導、技術・ノウハウ移転を行い、住民の自立を支援する活動であること。
- なお、日本からの資金援助、寄贈を目的とした物品の購入又は建設のみと思われる活動は助成対象外となります。
- 活動の様々な形態のうち、「マイクロファイナンス」「奨学金」については、助成対象の活動とします。
- (8) 活動実施にあたって活動地の属する国及び地域と十分な調整を行っていること。
- 実施国によってはNGOが活動するにあたって、NGO登録等の手続きが必要な場合がありますので、ご確認のうえ、必要な手続きが完了してから申請をしてください。
- また、申請時に、登録証等の写しをご提出ください。
- (9) 申請時点で、活動地及び周辺地に外務省海外安全情報(危険情報)において、「退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」が発出されておらず、申請団体が行う活動の安全が十分確保され得ること。
- ただし、その後危険レベルが引き上げられた場合、助成を見直す場合があります。
- (10) 活動実施において、感染症等に対するリスクに配慮した対策や減らす手段を講じていること。
- (11) 医療行為を伴う活動(診察や検診、健診、リハビリテーション等も含む)を申請する場合は、活動実施国において、医療行為を実施できる資格や証明を認定する機関(保健省等)から、医療行為を行う許可を書面で得られていること、また、その写しを申請時に提出すること。

《NGO講演会等経費助成について》

NGO海外援助活動の助成を受けているNGO(民間海外援助団体)が、一般市民を対象とした自団体の海外での活動状況等の説明、国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等(WEB開催を含む)を開催する場合に、その経費の一部(上限5万円)を助成しております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人ゆうちょ財団 国際ボランティア支援事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-7-4 ゆうビル2階
Tel. 03-5275-1815 / Fax. 03-6831-8970
電子メール: vlcenter@yu-cho-f.jp

3. 活動地域（2013年度～2023年度）

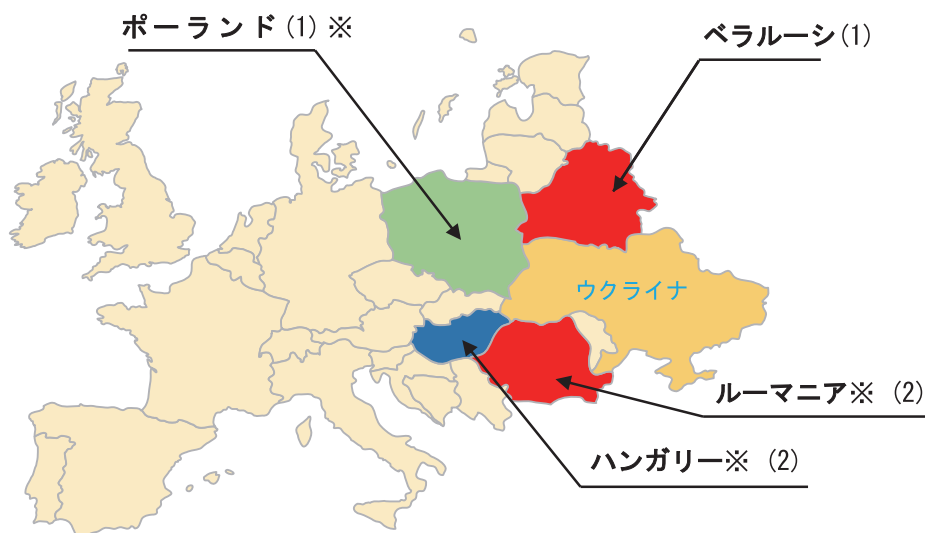
合計（28か国・地域）において、のべ123活動を実施しました。

（2023年度は活動中）

■欧州（4 か国・地域）

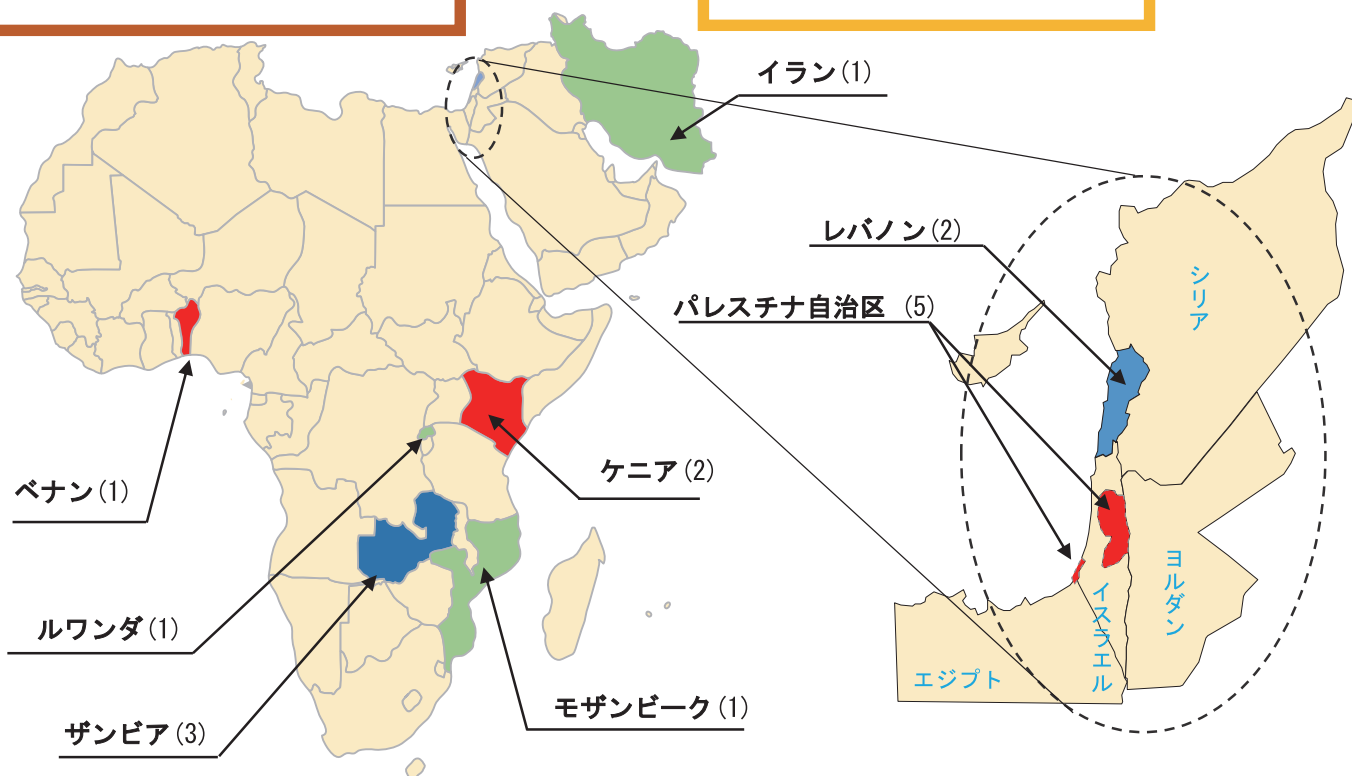
（ ）はのべ活動数

※はウクライナ避難民支援特別枠

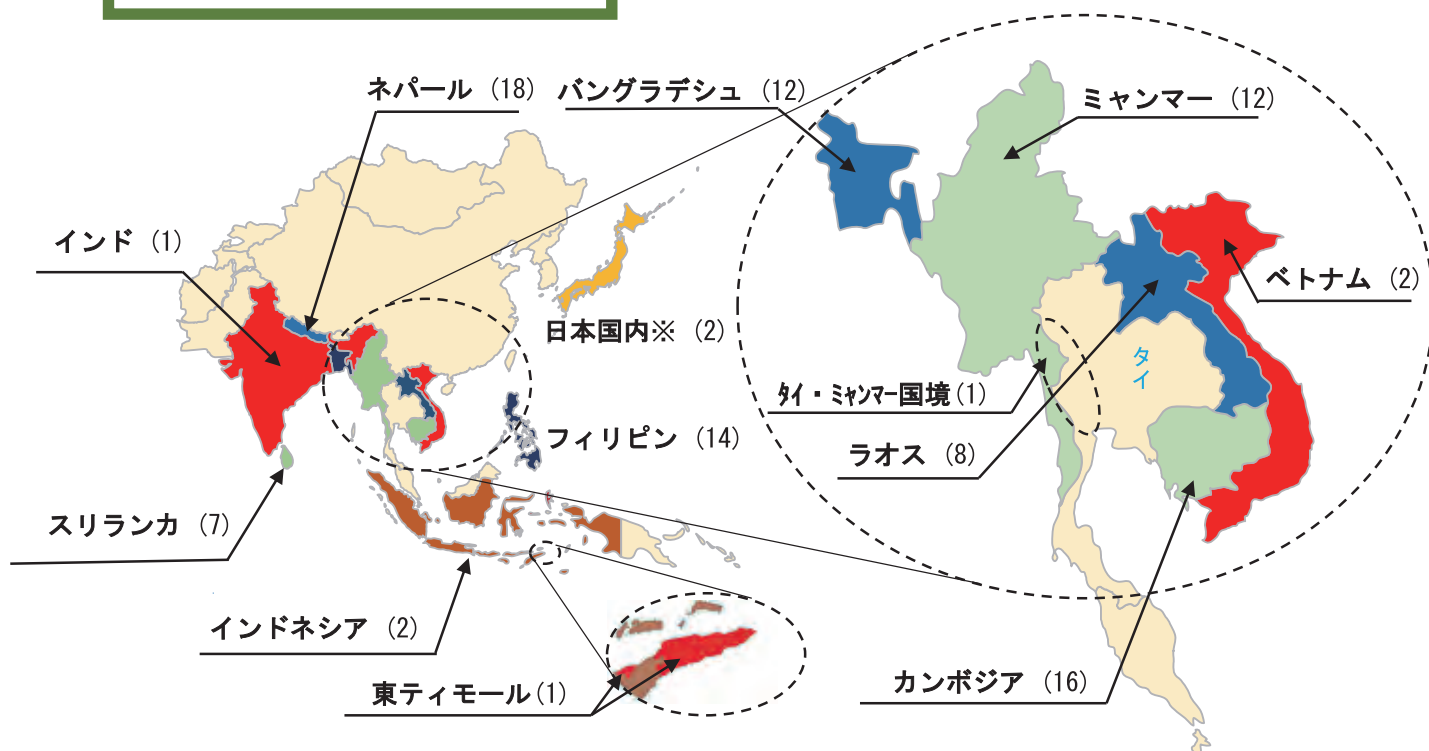


■アフリカ（5 か国・地域）

■中東（3 か国・地域）



■アジア (13 か国・地域)



■中南米 (3 か国・地域)



4. NGO海外援助活動助成団体一覧（2013年度～2023年度）

2013年度（9件）

団体名	活動実施国	活動名
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	バイオガスプラント設置と使用方法指導及び子ども達への環境教育
(公社)銀鈴会	バングラデシュ	喉頭摘出者への発声訓練技術指導（発声リハビリ訓練、教材の配布）
スリヤールワ スリランカ	スリランカ	津波被災者のための託児所の修繕
(特活)東洋歯学友好会	ベトナム	無償医科歯科の巡回診療
徳島ネパール友好協会	ネパール	農産物運搬用索道のメンテナンス及びメンテナンス技術の移転
(特活)日本・バングラデシュ文化交流会	バングラデシュ	女性を対象とした糸紡ぎ、手刺繍グループへ技術指導及び生産組織の整備
ハイチの会	ハイチ	畜産育成等農業指導
(特活)プロ・ワークス+和田	ベトナム	幼稚園教諭への幼児教育等の指導
(特活)ラブグリーンジャパン	ネパール	リーダー農民に対する有機農業研修の実施及び農業研修施設の補修等

2014年度（11件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活)アジア教育友好協会	ラオス	女子寮の新設及び教科書等備品の配備
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	バイオガスプラントの建設並びに環境保全・生活改善指導
梅本記念歯科奉仕団	ラオス	ハンセン病患者のための歯科診療、口腔衛生指導、医療技術指導、医療診療、フットケアの実施
(特活)国際エンゼル協会	バングラデシュ	地域児童生徒の教育環境充実のための校舎の修繕
(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	女性の生活向上のための縫製・パッチワークキルト施術指導
(特活)国境なき子どもたち	カンボジア	法に抵触した子どもへの基礎教育及び職業訓練
(特活)ジャパンハート	ミャンマー	現地住民に対する医療活動・医療専門職に対する医療指導事業
(特活)日本口唇口蓋裂協会	ラオス	口唇口蓋裂手術の実施及び医療機材の配備
(特活)日本チェルノブイリ連帯基金	ベラルーシ	心電計での心臓疾患検診と治療経過の確認を記録するソフトの設置
(特活)日本・バングラデシュ文化交流会	バングラデシュ	女性を対象とした手刺繍及び縫製技術指導及び生産組織の整備
(特活)ラオスのこども	ラオス	子どもセンターの運営強化

2015年度（12件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活)アイキャン	フィリピン	路上の子どもの児童養護施設強化事業
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	バイオガスプラントの建設並びに既設置地域の環境保全・生活改善指導
(特活)エクアドルの子どものための友人の会	エクアドル	学校菜園生産物による給食改善事業
(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	女性の自立のための縫製・キルト工芸技術向上と販路開拓指導
(特活)ジャパンハート	ミャンマー	現地住民に対する医療活動・医療専門職に対する医療指導事業
(公社)シャンティ国際ボランティア会	ラオス	少数民族の子どものための読書教材による教育改善
(特活)地球市民の会	ミャンマー	農村女性による生産グループ組織強化及び自立運営事業
(特活)日本国際ボランティアセンター	パレスチナ	子どもの栄養改善・貧血予防指導
(特活)ラオスのこども	ラオス	ラオスの伝統文化保存のための図書出版
(特活)パルシック	スリランカ	バイオガス消火液を液肥として活用した有機紅茶栽培
徳島ネパール友好協会*	ネパール	ネパール震災復興支援事業
(特活)ラブグリーンジャパン	ネパール	アナイコット村有機農業センターの修復

2016年度（10件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活)アイキャン	フィリピン	貰う存在ではなく、与える存在に～マニラの路上の子どもたちの挑戦プロジェクト～
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	バイオガスプラントの建設ならびに設置地域の環境保全、生活改善
(特活)エクアドルの子どものための友人の会	エクアドル	家庭菜園生産物による給食改善事業
(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	仕事のない女性の経済的自立に向けた縫製品試作、製パンのマネージメント・マーケティング指導
(特活)ジャパンハート	ミャンマー	現地住民に対する医療活動・医療専門職に対する医療指導事業
スリヤールワ スリランカ	スリランカ	津波被害者のための託児所の修繕
(特活)地球市民の会	ミャンマー	農民の現金収入向上のための村落開発リーダー育成事業の継続と拡大及び施設整備
(特活)日本国際ボランティアセンター	パレスチナ	子どもの栄養改善・貧血予防指導
(特活)パルシック	スリランカ	小規模農家による紅茶の有機栽培の生産向上支援
(特活)ハンガー・フリー・ワールド(HFW)	ベナン	中高一貫校の校舎基礎・1階部分4教室の増築

2017年度（11件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活)アイキャン	フィリピン	フィリピン初の路上の若者の協同組合カリエによるカフェ運営プロジェクト
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	バイオガスプラントの建設並びに設置地域の環境保全教育、生活改善指導
(特活)国際開発フロンティア機構	フィリピン	農村女性のモリンガ栽培普及と加工利用並びに伝統食ロンガニーサ作りのソーシャルビジネス化による収入向上と食・栄養改善
(特活)国境なき子どもたち	フィリピン	スラム地域における教育支援・子ども保護事業
スリヤールワ スリランカ	スリランカ	津波被災者のための託児所修繕
(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	村の女性の自立支援とともに村人・子どもの栄養改善
(特活) シャプラニール=市民による海	ミャンマー	農村女性による生産グループ組織強化及び自立運営事業
外協力の会	バングラデシュ	バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト
(特活)日本国際ボランティアセンター	パレスチナ	ガザ地区中部デル・アル・バラフにおける、子どもの栄養失調予防及び地域保健促進員の研修事業
(特活)日本ハビタット協会	ラオス	ラオスのルアンパバン県の学校における養鶏による給食および生活環境改善事業
(特活) アジアの子どもたちの就学を支援する会	カンボジア	最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業
(特活) リボーン・京都	ルワンダ	ルワンダ共和国キガリ市でのフェアトレード事業と洋裁訓練フォローアップ指導

2018年度（12件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活) アイキャン	フィリピン	フィリピン初の路上の若者の協同組合カリエによるカフェ運営プロジェクト(フェーズ2)
(特活) アジアの子どもたちの就学を支援する会	カンボジア	最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業
(特活) 国際開発フロンティア機構	フィリピン	農村女性のモリンガ栽培普及と加工利用並びに伝統食ロンガニーサ作りのソーシャルビジネス化による収入向上と食・栄養改善
(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	ネパール農村部の女性の経済的自立に向けたリーダーの育成
(特活) 国境なき子どもたち	バングラデシュ	ストリートチルドレンを対象としたドロップインセンター事業

団体名	活動実施国	活動名
(特活) シャプラニール=市民による海外協力の会	バングラデシュ	バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト
(特活) 地球の友と歩む会	インドネシア	インドネシア東スンバ島の低収入農家のための有機農業技術支援および給水設備整備事業
(特活) 日本国際ボランティアセンター	パレスチナ	ガザ地区中部における子どもの栄養失調予防及び地域保健促進員の研修事業
(特活) ラブグリーンジャパン	ネパール	アナニコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事
(特活) オイスカ	ミャンマー	マグウェイ地域の農村地域の住民のための小規模養豚の品質向上並びに普及プロジェクト
(公社)シャンティ国際ボランティア会	ミャンマー	ミャンマーにおける児童図書出版活動
(特活) 地球市民の会	ミャンマー	ミャンマー・シャン州の農村における安定した水利用の実現と衛生環境改善事業

2019年度（11件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活) アジアの子どもたちの就学を支援する会	カンボジア	最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の普及と強化
(特活) 幼い難民を考える会	カンボジア	「村の幼稚園」事業 絵本の出版・研修配布
(特活) カマル・フリーダ	フィリピン	母親たちのためのSHG組織による経済的自立支援
(特活) 国際開発フロンティア機構	フィリピン	農村女性の農畜産加工による収入向上と食改善
ハイチ友の会	ハイチ	マイクロクレジットを通じたモリンガ栽培・加工モニタリング事業
(一社) モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク	事務局兼寺子屋の設備整備
(特活) アイキャン	フィリピン	路上の子どもたちの活動基盤強化事業
(公財) オイスカ	スリランカ	多様性豊かな地域づくりに向けた苗床づくりと環境教育の推進
(公社)シャンティ国際ボランティア会	タイ・ミャンマー国境	図書館を通じた帰還民支援活動
(特活) 難民を助ける会	カンボジア	地域に根差した障がい児の教育支援体制構築事業
(特活) 日本国際ボランティアセンター	パレスチナ	子どもの栄養失調予防・改善活動

2020年度（10件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活) アジアの子どもたちの就学を支援する会	カンボジア	最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の普及と強化
(特活) 幼い難民を考える会	カンボジア	就学前教育の充実のための保育教材研修・配布プログラム一質の高い就学前教育の普及
(特活) 地球の友と歩む会	インドネシア	水道組合設立および住民主体の持続的な水道事業運営に向けた基盤構築事業
(特活) 日本・バングラデシュ文化交流会	バングラデシュ	地域住民による持続可能な大豆入り学校給食実施の支援、および母親や地域住民を対象にした栄養と健康に関するワークショップの実施
(特活) 光の子どもたちの会	ブラジル	学童教室実施から学ぶ、公立小学校におけるライフスキル授業実施事業
(特活) ラブグリーンジャパン	ネパール	低所得農家30世帯への家畜飼育支援による生計向上
(公社)シャンティ国際ボランティア会	カンボジア	「図書館活動を中心としたCLC」の自立運営に向けた基盤強化活動
(特活) 地球市民の会	ミャンマー	循環型農法を用いた学校農園実践による循環型農業普及事業
(特活) 難民を助ける会	ミャンマー	障がい者への職業訓練の提供および就労環境整備
(特活) パルシッパ	スリランカ	サリー・リサイクル事業に参加する女性の縫製技術向上研修およびフォローアップ活動

2021年度（10件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活) アジアの子どもたちの就学を支援する会	カンボジア	最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の普及と強化
(特活) 礎の石孤児院	ザンビア	HIV 孤児のための教育支援
(特活) 幼い難民を考える会	カンボジア	地域幼稚園への保育教材研修と配布
カディプロジェクト	インド	農村地域における、自然素材を用いた就労場所づくり
(特活) YOU&MEファミリー	バングラデシュ	学校（幼・小・中）における、貧困層生徒の自立を目指したクラブ活動活性化と学校衛生環境の改善
(特活) ラブグリーンジャパン	ネパール	コロナ禍 低所得20世帯への家畜飼育支援による生計向上
(特活) 国境なき子どもたち	フィリピン	自立支援施設「若者の家」での危機的状況にいる子どもたちの保護および教育・生活支援
(特活) シャプラニール＝市民による海外協力の会	バングラデシュ	家事使用人として働く少女のための支援活動
(公社)シャンティ国際ボランティア会	ラオス	少数民族の児童のラオス語能力向上支援のための絵本を通じた読書推進活動
(特活) 地球市民の会	ミャンマー	生活用水配水による衛生環境改善事業

2022年度（13件）

団体名	活動実施国	活動名
(特活)礎の石孤児院	ザンビア	HIV 孤児のための教育及び給食支援事業
(特活)幼い難民を考える会	カンボジア	新規「村の幼稚園」園舎・トイレ建設と保育者の研修事業
(特活)YOU&MEファミリー	バングラデシュ	学校（中等教育）での貧困層生徒を対象とした職業訓練指導の持続可能な運営を目指して
(特活)Little Bees International	ケニア	循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業
(特活)LOOB JAPAN	フィリピン	資源循環社会の形成に向けたごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化
(特活)国境なき子どもたち	フィリピン	自立支援施設「若者の家」での特別な保護を必要とする子どもたちの保護および教育・生活支援
(特活)シェア＝国際保健協力市民の会	カンボジア	栄養不良児のフォローアップ強化と栄養改善
(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会	バングラデシュ	家事使用人として働く少女のための支援センター運営活動
(特活)テラ・ルネッサンス	カンボジア	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト
(特活)パレスチナ子どものキャンペーン	レバノン	難民キャンプにおける学習支援と心理社会的サポートを通じた子どもと家族支援
(特活)地球市民の会 ※	日本	ウクライナからの避難民受け入れ生活スタートサポート事業
(特活)テラ・ルネッサンス ※	ハンガリー	避難先への移動支援および避難民の生活支援
LIFT LIFE STANDARDS ※	ポーランド	ウクライナ避難民への食糧支援

※：ウクライナ避難民を支援する特別枠

2023年度（14件）＜活動中＞

団体名	活動実施国	活動名
(特活)礎の石孤児院	ザンビア	エイズ孤児のための教育及び給食支援事業
(特活)イランの障害者を支援するミントの会	イラン	車いす障害者の印刷技能を活用した社会参加事業
(特活)幼い難民を考える会	カンボジア	自立運営を目指す「村の幼稚園」2年目、3年目の運営事業
(特活)DAREDEMO HERO	フィリピン	貧困層からのリーダー育成事業
(特活)Little Bees International	ケニア	循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業（2年目）
(公社)アジア協会アジア友の会	ネパール	十分な栄養を摂り健康な生活のための食料確保と、収入が確保できる家畜飼育による農業促進と、子どもたちの栄養改善のための栄養教育活動
(特活)シェア＝国際保健協力市民の会	カンボジア	コミュニティにおける栄養改善と低体重児のフォローアップ
(特活)ジャパンハート	ミャンマー	医療アクセスの悪い地域での現地医療人材育成事業
(特活)パルシック	東ティモール	ロブスタコーヒーの品質改善による生計向上事業

団体名	活動実施国	活動名
(特活)パレスチナ子どものキャンペーン	レバノン	難民キャンプにおける学習支援と心理社会的サポートを通じた子どもと家族支援
外国人女性の会パルヨン※	日本	ウクライナからの避難民に対する専門家による母語での心理的支援事
グッドネーバース・ジャパン※	ルーマニア	ウクライナ難民の孤児院の子どもたちへの給食の提供事業
テラ・ルネッサンス※	ハンガリー	避難先への移動支援および避難民の生活支援
ピースボート災害支援センター※	ルーマニア	避難民支援センター「ドブラ・ハタ」における物資支援事業

※：ウクライナ避難民を支援する特別枠

一般財団法人 ゆうちょ財団 国際ボランティア支援事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-7-4 ゆうビル 2 階

Tel. 03-5275-1815 / Fax. 03-6831-8970

電子メール : vlcenter@yu-cho-f.jp

当事業部のキャラクター

「ボラン」くんと「ティア」ちゃん

